

上杉雅之（監修）

イラストでわかる小児理学療法

玉井 浩（大阪医科大学小児科）

理学療法に関する教科書は数多くあるが、小児について書かれている書籍は少なく、1冊の本のなかに凝縮された本書はきわめて特異な存在である。しかも、実践家による執筆であり、小児に関する理学療法のすべてを網羅していてすばらしい教科書である。

発達の総論、1歳ころの独歩までの運動発達、反射と姿勢反応の発達の理解、続いて、脳性麻痺の評価と治療はもちろんのこと、筋ジストロフィーやダウン症、低出生体重児などの各論についても触れられている。最近重視されている発達障害児への対応にもページを割いているのは特筆すべきことと思われる。

‘エッセンス’にまとめられた内容は、総論、原

則、その章の紹介などであるが、これを章の本文を読む前にまず読み、そして読後にふたたび読めば3倍くらいの効率の良さと知識を獲得できる。

イラストやテスト形式の確認問題は学生にとっては知識の整理・確認になるであろう。

最終章の漫画も監修者や執筆者の体験に基づいているようにも思えて、興味深く楽しく読むことができる。

本書は、私たち小児科医にとっても、家族への説明や外来でできる指導書としても役立つものと思う。

（B5 頁 280 2013 年 定価 4,410 円（本体 4,200 円＋税）医歯薬出版刊）